

上海レポート

令和4年11月号

Vol. 27



公益財団法人 大阪産業局上海代表処 (大阪府上海事務所)

中国上海市延安西路 2201 上海国際貿易中心 408 室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 http://osaka-sh.com.cn

20221107 号	マスク不着用反則負け騒動に見る中国と日本のマスク論争	所長助理 徐潔
20221114 号	上海で観る京劇	所長 南浦秀史
20221121 号	上海市を走る電動の乗り物	副所長 土佐憲弘
20221128 号	2 日間の ART021	副所長 小森亮人

マスク不着用反則負け騒動に見る中国と日本のマスク論争

将棋の第 81 期名人戦 A 級順位戦で、棋士がマスクを着用していなかったため反則負けとなったことが、中国でも注目を集めている。

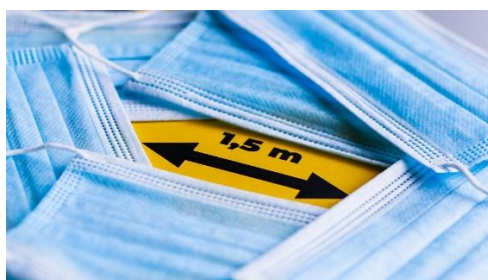
騒動の発端となったのは東京・千駄ヶ谷の将棋会館で 10 月 28 日に行われた、佐藤天彦九段と永瀬拓矢王座の対局。佐藤九段が一定時間、マスクを外していたとして、日本将棋連盟が臨時規定に基づいて反則負けとした。同規定では、健康上やむを得ない場合を除いて対局中はマスクを着用しなければならない(飲水など一時的に外すのは可)と定められており、立会人が反則負けを判定する。しかし、当時立会人はその場におらず、永瀬王座が「反則ではないか」と関係者に指摘、連絡を受けた連盟関係者が急きょ駆けつけて協議の上、1 時間ほど後に反則負けと判定され、佐藤九段は「注意を受けていない」と反論したが、判定は覆らなかった。

中国版ツイッター・微博(ウェイボー)ではこのニュースが一時トレンド入り。ネットユーザーからは主に 2 種類の声が聞かれた。

一つ目は「日本ってもう完全開放されたのじゃなかった?」「今の中国ならこれほど防疫を徹底するのは分かるが、日本でもまだその義務があるのか」といった驚きの声や、「やはり基本的な防疫は必須ということだ」「マスク着用の文化はそろそろ解放されても良いのではないか」といったマスク文化に関する声である。

二つ目は「ルールでマスク着用が決まっているなら(永瀬王座は)相手に教えてあげればいいのに。予告なしに反則負けとなるルールはおかしいのではないか」等、将棋のルールに疑問を投げかける声。

将棋のルール、マスク文化のルール、それぞれに様々な意見がある。読者の皆様は、これらの意見をどう捉えるのだろうか?



上海で観る京劇

上海市中心部、福州路の西端、人民広場の近くに、天蟾逸夫舞台という京劇の劇場があり、ほぼ毎週、週末に2作品が上演されています。チケット代は、演目にもよりますが、80元(約1600円)から100元きざみで380元(約7600円)まで、人気の演目では580元(約11600円)というものもあります。チケットは、今時の上海らしく、WeChatのミニアプリで購入します。座席を指定し、支払いは電子マネーです。購入すると確認の通知が携帯電話にショートメッセージで届き、自分の予約情報はミニアプリでいつでも確認することができます。

いまはコロナ対策もあり、入場には48時間以内のPCR検査陰性証明が必要です。入場時にまず健康コードのチェックがあり、その後、荷物検査、そして、携帯電話の画面に表示されるQRコードの電子チケットを読み取ってようやく入ることができます。座席は、密にならないように、半分くらいが間引かれています。舞台の両側に字幕が表示されるようになっており、友人に聞くと、中国人でも京劇の役者の台詞は理解できないそうです。音楽は生演奏で、二胡や琵琶、打楽器などにより、あの独特なリズムが奏でられます。

上演中、撮影は禁止されていますが、スマホ大国の中国では、スマホで写真やビデオを撮る人が少なくありません。発見されると、係員が後ろから赤いレーザーポインターでスマホ画面を照射します。あまりにもしつこいと直接注意されるようです。

いい演技には拍手が送られますし、さらには、好(ハオ)!というかけ声がかかります。先日観た舞台では、登場するだけでかけ声がかかり、一声発すると、声が場内に響きわたり感動で鳥肌が立つといった凄い俳優を目にすることができました。良いものは人の心に直接伝わることを体験した不思議な瞬間でした。

新しいものがあふれる上海ですが、中国の伝統的なものにも触れることができます。



上海市を走る電動の乗り物

日本では電動キックボードに関する改正道交法が今年可決し、新しい移動手段として普及しそうな兆しがありますが、現在上海では色々な種類の電動の乗り物が道路を走っています。

街中のバイクやスクーターはほぼ電動で、排気音を出して走るバイクを見かけることは滅多にありません。リヤカーも電動で、荷車がエンジン音もなく静かに走っている姿を初めて見たときは電動化の普及度に驚かされました。

また自動車も電動化が進んでいます。先月、上海国際金融センターにあるNIO(上海蔚来汽車)のショールームを見学させて頂きました。NIOは電動自動車(EV)に特化した車種展開により今急速に人気を集めている中国の自動車メーカーです。NIOのEVは、車載バッテリーを充電することなく、専用の交換所において全自動で、フル充電されたバッテリーごと交換できる点に優位性があります。交換は約5分で済み、NIOは2025年までに世界で4000カ所交換所を設置することを目指しているそうです。もちろん家庭や充電ステーションでバッテリーを充電することも可能です。車内は音声認識技術やタッチパネルが搭載されており、最新技術が駆使されています。

幼い頃に映画等で見た近未来的な乗り物が街中を走る光景が現実になってきているように感じました。



2 日間の ART021

上海市中心部を東西に横切る延安高架道路沿いに上海展覽中心というコンベンションセンターがあり、先日近くを通った際に何かのイベント設営が行われているのが目に留まりました。その時は詳細を知ることもなくその場を後にしたのですが、後日それが 11 月 10 日に開催された「ART021」というイベントの設営であり、同イベントがコロナ陽性者の来場があったため開催 2 日目にして急遽閉幕を余儀なくされたことを知りました。

この「ART021」は、中国内外から 130 以上のギャラリーが出展する中国最大級のアートフェアであり、国内外の様々な作家による作品が展示、販売されるイベントです。私は中止となった後に本イベントを知ったのですが、開催初日に会場に足を運ばれていた他の自治体事務局長より開催時の様子についてお話を伺うことができました。

当日は広大な会場内に各ギャラリーのブースが設置され、美術愛好家に加えて若い人や子供連れなど多くの観覧者が訪れていたとのこと。展示作品は中国の伝統的な墨絵の技法を現代風に解釈したものや、欧米的な雰囲気を持った鮮やかでポップな表現のものなど、多彩なアートを楽しむことができる空間であったようです。他にも、ヨーロッパの有名ブランドから中国の伝統色を使ったバッグが出品されるなど意欲的な試みも見られたとのことであり、これだけの規模で自国、海外問わず多様な出展者が集まるイベントは日本でもあまりないかもしれません。

開催 2 日目で閉幕となった本展ですが、中止が案内された際の現地 SNS 上では来年の開催を期待する声が多く見られたとのことでした。突発的なイベントの中止は現在の上海では残念ながら決して珍しいものではありませんが、垣間見えた本イベントへの人々の声は上海の人々の芸術や文化活動への関心の大きさであるように思います。やがてコロナが克服された際には、こうしたイベントが数多く開催され、多くの人を訪れることでしょう。

